

研究分野	慢性疾患看護, 地域・医療連携, 健康教育
キーワード	セルフケア支援, セルフケア自己評価, 健康教育, 地域医療連携, 外来看護, 糖尿病

糖尿病療養指導士と患者会の協働による地域医療連携・セルフケア支援

医学部 看護学科 実践看護学講座 <http://www.oita-u.ac.jp/>
 准教授 脇 幸子 (Sachiko Waki)



研究概要

1. 糖尿病療養指導士と患者会の協働によるセルフケア power up プログラムの有効性
 糖尿病重症化予防のためのセルフケア支援では、単に食事や運動などのセルフケア方法や知識だけでなく、自分自身で自分のセルフケア状況を自己評価できる力を育成することが重要であるが、外来診療時だけでは効率的ではない。そこで、糖尿病・予備軍のある人と糖尿病療養指導士(CDE; Certified Diabetes Educator)との相互作用の場である、患者会活動や一般公開講座などにおいて、先行研究で示唆された『糖尿病をもつ人のセルフケア自己評価を促す支援のガイドライン』(H25~H28 基盤C)を活用したセルフケア支援を行い、患者会との協働によるセルフケア power up プログラムの有効性を明らかにする
2. 情報共有化のためのシステム：外来看護や介護老人保健施設でのセルフケア支援ツール
 人々は健康に対する意識を高め、自分の健康は自分で護るといったセルフケアの精神が高まりつつある。また、個人にとってより良い医療を、個人が選択する時代となっていると考える。このように、自分の健康は、自分で護る健康、自分で選ぶ健康として、地域住民が自分の健康への関心を高め、自分の健康に応じて適切に医療・保健の活用ができるように情報を提供するシステム、また外来看護のセルフケア支援のツールとして尺度やコンテンツの開発を検討している。

アピールポイント (技術・特許・ノウハウ等)

1. 共同研究で利用可能な器機：じ・ま・え健康支援システム(タッチパネル式情報提供システム)(廃止)
2. ICT (Information and Communication Technology) を活用した医療情報コンテンツ(廃止)
3. セルフケア自己評価アプリ
4. 大分県糖尿病療養指導士会および大学教員としての啓発イベント企画



上写真：じ・ま・え健康支援システム (2004~2017)



上写真・右図
 セルフケア自己評価アプリ
 : 外来看護セルフケア支援



応用可能な分野